

随筆

My home - town Jodhpur

専任講師 Sanjay Pareek

成田空港から国際線で10時間、更に国内線に乗り換えて行くこと1時間半、飛行機から降り立つと抜けるような青空、砂漠から吹きつける熱く乾いた風、そして灼熱の太陽が出迎えてくれる。そう、この地が私の故郷、インド“ジョドプール”である。私は、日本から4000マイル離れたこの故郷、ジョドプールについて、少々お話をしたいと思います。

ジョドプールは、インド北西部、パキスタンとの国境に接する人口50万人のラジャスタン州第2の都市です。ここは広大なタール砂漠の入り口にあり、1459年マールワール王国の首都として当時、ラトールとして知られていたラジュプート族の首長、ラオ・ジョーダによって創られた歴史も古い城下町です。また、家々の壁がブルーに塗られており、高台から眺めると街全体がブルー色に見えることから、別名“ブルーシティ”とも呼ばれています。

この街のシンボルは主に2つあります。一つは、街の北西に見下ろすようにそびえているメヘランガル城塞、

そして向かい合うように南東の丘に立ち、現在もマハラジャが住んでいるウメイド・バワン・バレスです。

メヘランガル城塞はこの街と共に1495年に建てられました。この城壁は高さがほぼ60mあり、その中には多くのラジャスタン様式の宮殿が立ち並んでいます。壁や窓は全て石造りで外装には繊細な彫刻がぎっしりと施されています。岩山の上に堂々とそびえ立つ強固な外見と内部の絢爛たる宮殿の対照的な美しさを持つ、とても雄大な城塞です。

ウメイド・バワン・バレスは、干ばつに見舞われた際、マハラジャ・ウメイド・シンが人々に仕事を与えるためこの宮殿の建設を計画・指示し、英国建築協会の会長HU Lanchesterの設計により、1929年から約14年間かけて3千人の職人たちの手によって建てられました。この宮殿の全長は195m、幅103mで、全部で400もの部屋があり、中央には高さ56mにも及ぶ吹き抜けのドームがあります。ジョドプールの砂岩を一つ一つ手で削りながら、特殊なインターロッキング形式でモルタルを使用せ



メヘランガル城塞



城塞の内部



マハラジャ・ガジュシンII世ご家族とウメイド・バワン・パレスにて

ずに造り上げた建物で、まさに芸術的な作品です。

この二つの建造物は、私の家のテラスからも見ることができますが、今でも子供の頃に見た、夜空の星と月のやわらかい光に照らされたメヘランガル城塞とウメイド・バワン・パレスのとても幻想的な情景が、私の心の中に印象深く残っております。

ジョドプールの夏は4月から7月まで続きます。日中の温度は40℃から45℃と、とても厳しく外に出ることが出来ない位の猛暑です。ですからほとんどの建物がこのような厳しい暑さをシャットアウトするため、砂岩造りで出来ており、壁もとても厚く、構造としては非常に重く、かなりのヴォリュームになっています。尚、一般住宅の建築については、別の機会に述べさせて頂きたいと思います。



中央吹き抜けドームの内部空間



ウメイド・バワン・パレス